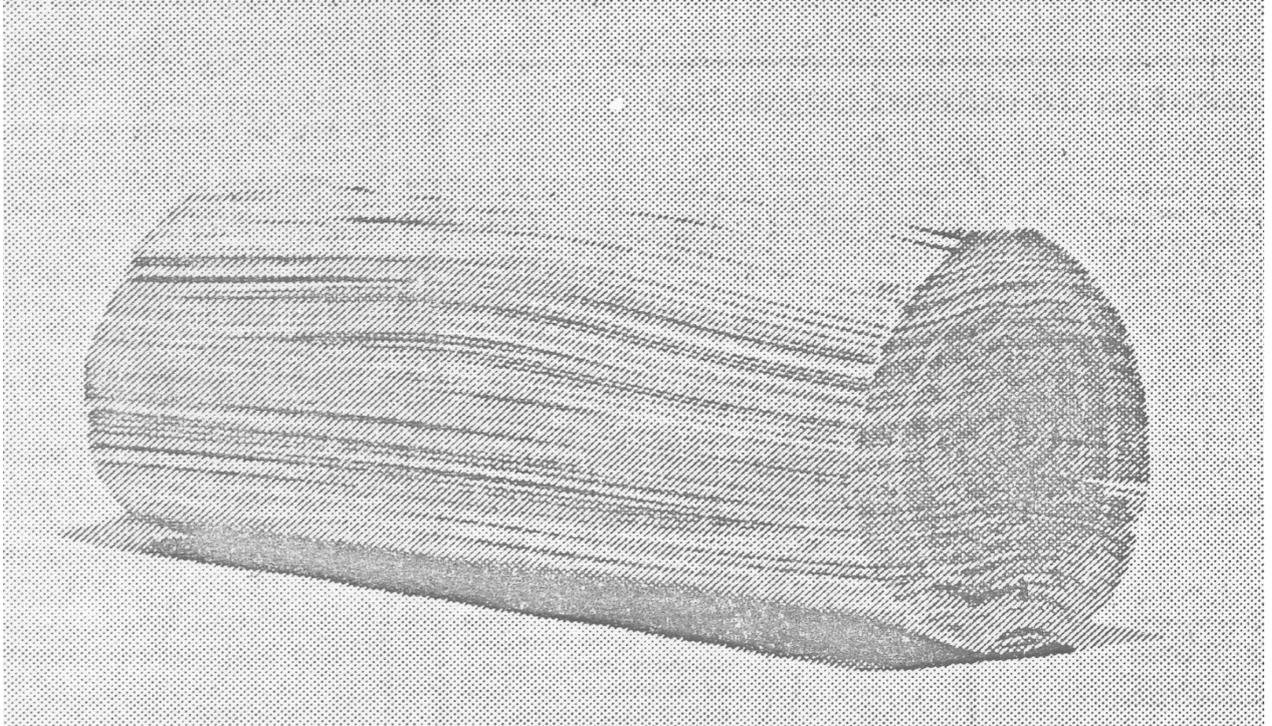


ADUITGAANSKRANT



Wood No. 5 F van Kazuo Kadonaga

タイトルの下でねえ。「現代日本美術」、ギャラリーヌーヴェユ イマージュは 19 人の日本人アーティストの作品を集めています。持ってきた。8 月 30 日まで、ハーグギャラリー（ウェシュタインデ 22）の部屋は木で装飾されています。

ロープの彫刻。ラン、ブロンズ、花崗岩、大理石のオブジェクト、絵画、ジュエリー、テキスタイルデザイン、すべてがそのように知られているシンプルさとエレガンスで。日本美術の特徴。

にメイン。この博覧会の管理。日本のアーティストとの関係が強まっている状況でした。さらに、私は東部の仲介的な考え方に魅了されており、それらのほとんどは何らかの形で現れています。

オーナーのトン・ベレンズ氏は「プレッシャーがかかるだろう」と語る。ヨーロッパには新妻兼治郎や菅原二郎など様々なアーティストが住んでいるが、作品に直接的な影響を与えていないのは印象的。

違いがあれば当然のことだろう。

西洋と東洋の文化が考慮されています。最も印象的なのは、博覧会の彫刻は菅原による「木」です。この 31 歳の芸術。

スパイクは木の幹を分割します。

ウェーハのように薄いスライスに分割し、その後再びまとめます。角永は樹木に夢中になっているので、いろいろな方法でこのアイデアを練り上げてきました。

火曜日から土曜日。 11~17 日目。